

吾人は衷心より誠に虞る、吾人が過去に於て極力努力せし勞資融和は此一期に於て忽然として勞資鬭争に變じ郵船會社屬員が日本海員の模範なりと誇れる良素質——會社に對する從順忠誠の念、各部特種の技術に對する能率は此一期を以て低下惡化の道程に向ふべきを。

此精神的大損失は交通機關の一時的中止、國家産業の僅少なる減退に比すべきものに非らず、國家の海運政策上に於て何物を犠牲に供しても失なふべからざる素因なり。

吾人が今回郵船屬員の盟休に賛して起てる原因實に茲に存す敢て關係當局者及社會一般各位に宣す。

大正十二年十一月六日

日本海員組合長 檜 崎 猪 太 郎